

JREU TOKYO

業務部速報



2025. 6. 15 No.093

発行：JR東労組東京地本 業務部

2025年度 駅業務関係施策（その1）について提案を受けました！②

【提案時の組合と会社の主なやり取り】

御茶ノ水駅

- (組)なぜ遺失物取扱所の移転を行うのか？
 (社)駅改良工事に伴い、聖橋口改札へ遺失物対応窓口を設けた。ホームでの遺失物取扱件数も少ないことから、遺失物取扱所と改札を融合させ効率的で生産性の高い業務執行体制を構築する。
- (組)具体的にどの作業ダイヤが減るのか？
 (社)ホーム業務の1徹減を計画している。
- (組)立ち番業務(乗降終了表示)についてはどうなるのか？
 (社)立ち番業務はこれまで通りで変更はない。
- (組)ホーム担当が改札口で遺失物業務をする場合、併せて改札業務も行うのか？
 (社)現行でも一部時間帯に改札補助業務を行っている。**改札業務と遺失業務を一人で全て行う作業ダイヤは考えていない。**
- (組)改札担当が新たに遺失物業務を担うことになるが、必要な教育は行っていくのか。
 (社)しっかりと行っていく。

尾久駅・三河島駅(田端駅)

- (組)改札の営業時間が日中帯のみとなるが、遠隔時間帯はどのような動きを想定しているのか？
 (社)遠隔時間帯の初動対応は制御駅の田端駅が行う。遠隔での対応が困難な場合は、各箇所に連絡をとり改札裏の内勤や信号担当等がお客さま対応を行う。
- (組)改札裏に社員が居るのであれば、わざわざ田端駅を間に挟むのは時間の無駄ではないか？
 (社)問い合わせの実績を調査したうえでの判断である。
- (組)改札営業時間を短縮するにあたり、事前にお客さまのご利用状況等の把握は行ったのか？
 (社)各駅ともに検証を行った。

尾久駅→ 3月の下旬から4月にかけて15日間

三河島駅→ 3月11日～3月31日、6月24日～7月7日

- (組)検証期間として短い。出面は年間の業務量を勘案するものである。こんな短い期間で1年間の業務量を推し量れるのか。
 (社)期間は十分だと考えている。現場の副長に日々の業務について聴き取りも行っている。
- (組)副長が現場社員の作業実態を把握しているという根拠は何か。
 (社)各職場で業務日誌がつけられている。その日誌を副長閲覧しているため、日々の業務について副長は十分に把握している。
- (組)受け入れる**田端駅側の体力は考えているのか。業務量が増加するのに出面が増えていない。**
 (社)**田端駅は業務の受け入れが十分に可能だと考えている。**

共通

- (組)今提案は現場からの発意か？それとも首都圏本部の発意か？
 (社)現場からの発意もあるが、今提案は首都圏本部の発意である。
- (組)首都圏本部にて事前に作業ダイヤ等のシミュレーションを行い、実施可能であると考えたのか？
 (社)その通りだ。事前に関係個所との打ち合わせも行った。
- (組)**作業ダイヤ(案)を示すなどして、施策実施前に実際に働く組合員・社員からの意見等も反映させるのか？**
 (社)**関係個所との連携をしっかりと取って、丁寧に実施する。(案)の段階で一部の社員のみではなく、前広に公開し意見集約をする。**

上記提案以外に参考情報として

- ・我孫子駅における遺失物取扱い、車内貫通、お身体の不自由なお客さまご案内業務の委託会社変更 JESS→警備会社へ
- ・上野駅における、券売機移転に伴う JESS への券売機関係業務委託の解消についても示されました。